

出題分析		
試験時間 90分	配点 120点	大問数 5題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>昨年と比較すると、大問の出題傾向や分量には大きな変化が無かった。全体の難易度に関しても、昨年と同様に難しい。大問Ⅰの長文読解問題が難しいことも例年通りである。試験時間の割には問題の分量が膨大で、大問によって難易度の差も大きいため、解ける問題をとりこぼさないようにしたい。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 (食糧安全保障のための方策)	「食糧安全保障」に関連した3つの英文を読み、15問の設問に答える問題。本文は昨年よりも理解しやすい内容であったろう。とはいえ分量が多く、答えを絞りづらい問いもあり、決して容易に解答できる大問ではない。他の大問を解く時間を考慮すると、ここで時間を使いすぎることは避けたい。	やや難
II	整序英作文問題 (生命は化学システムである)	短めの英文中の5か所について、単語を適切な順序に並べ替えて英文を完成させる問題。時間をかけずに処理したいところだ。解答が思い浮かばない場合でも、選択肢から逆算すればある程度語順を絞り込むことができるだろう。	標準
III	A. 英文空所補充問題 (企業が失敗する理由の分析) B. 文・段落整序問題 (新薬開発のプロセス)	Aは、数か所の空所を含む短い文章を読んで問いに答える問題。今年は6問すべてが空所補充であった。比較的趣旨を理解しやすく、読みやすい英文であった。Bは、5つの段落を並べ替えて英文を完成させる問題で、難易度は標準的である。5つの段落のうち、1つはさらに5つの文を並べ替えて完成させる必要がある。今年はNMEsやFDAなどの略語も解答の助けになったであろう。	標準

設問別講評			
IV	A. 短文読解問題 (陰謀論の性質) B. 短文読解問題 (幹葉表示の解説)	Aは、「説明的美德」の説明と、陰謀論がそれらを欠くことを述べた英文を読んで問いに答える問題である。例年どおり、純粋な英語力に加えて論理的思考力が求められている。Bは、幹葉表示と呼ばれる統計データの表示手法を説明した英語版ウィキペディアの抜粋である。設問の難易度は高くないが、テーマに馴染みが無く内容理解に苦しんだ受験生もいただろう。	標準
V	語彙問題	各設問に定義と例文が2つずつ与えられており、その例文中の空所に共通して入る単語を答える問題。15問すべてが同じ出題形式である。7.のdisplaceはやや思いつきにくい。また、9.のsuspendや13.のconcertは片方の定義のみに拘泥すると行き詰まりやすい。ほとんどの単語の語彙レベルはそこまで高くないので、与えられた定義からいかに連想できるかがカギである。	標準

合格のための学習法

大量の設問を効率的に処理していかなければならず、受験生にとってはかなりの負担である。ただし、大問ごとの難易差が大きく、特にVは設問形式に慣れるかどうかで解答速度が大きく変わる。Iの長文においては、特に抽象的・専門的な文章が出題されることが多く、読解は容易ではない。一部の得点すべき設問を取りこぼすことのないよう、まずは通常の読解力を伸ばして欲しい。全体として出題される英文の内容は理系的なもの、特に科学的方法論・手法について述べた文章が頻出なので、そうしたものに読み慣れておくことよ。また、問題演習を通じて、自分にとって最適な解答順序を把握しておくことも重要だ。